

# 東浦町中央図書館所蔵原稿一覧

(合致欄：本と◎ほぼ一致、○部分的に一致、△推定)

	原稿タイトル	請求記号	原稿収納記号	合致
1	国文学通論	H 1	A 1-1	◎
2	序説「日本文学の対象性」	H 2	A 1-2	◎
3	日本文学の韻律	H 2	A 1-3	○
4	日本文学に於ける創作と批評	H 2	A 1-4	◎
5	短歌概説	H 2	A 1-5	◎
6	歌論の二元的対立の発展	H 3	A 2-1	◎
7	物語批評の発達	H 3	A 2-2	○
8	中世文学論に於ける道と型	H 3	A 2-3	◎
9	「なぐさみ」の文学評論	H 4	A 2-4	○
10	近代に於ける文学評論の傾向	H 4	A 2-5	○
11	伝統的文学	H 4	A 2-6	○
12	日本文学評論史 形態論篇 目次	H 5	A 3-1	◎
13	古代中世の文学思潮	H 5	A 3-2	○
14	近世文学批評に於ける道徳的要素	H 5	A 3-3	△
15	日本文学評論の二様式	H 5	A 3-4	○
16	近世小説批評と小説観	H 5	A 3-5	◎
17	幽玄の研究	H 5	A 3-6	○
18	日本評論史に於ける美論	H 5	A 3-7	◎
19	詩歌論に於ける中世より近世へ	H 5	A 3-8	○
20	(日本文学評論史 形態論) 序説	H 5	A 3-9	◎
21	日本文学評論史 第四卷 形態論篇	H 5	A 3-10	◎
22	俳論史 (蕉風の俳論)	H 6	A 4-1	◎
23	俳論史	H 6	A 4-2	◎
24	近世詩歌論史 (レジュメ)	H 6	A 4-3	○
25	近世詩歌論史	H 6	A 4-4	◎
26	古代国文学の背景 一万葉集の文化的背景一	H 7	A 4-5	◎
27	山柿と日本的性格	H 7	A 4-6	◎
28	万葉集註釈書に就いて	H 8	A 5-1	◎
29	万葉研究史の考察	H 8	A 5-2	○
30	万葉研究史	H 8	A 5-3	◎
31	伴信友の万葉研究	H 8	A 5-4	◎
32	木村正辞の万葉研究	H 8	A 5-5	◎
33	万葉集私考	H 8	A 5-6	○
34	上代日本文学の研究 目次	H 9	A 6-1	○
35	古代和歌と藤原定家	H 9	A 6-2	◎
36	国学の精神	H 9	A 6-3	◎
37	上代民族文学研究史	H 9	A 6-4	○
38	古代の小説批評の考察	H 10	A 7-1	○
39	形態論 (断簡四種 各一葉)	H 10	A 7-2	○
40	小中村清矩の学問 一国学と国文学との関係に関して一	H 10	A 7-3	○
41	国文学史研究と藤岡博士	H 10	A 7-4	◎
42	日本文学評論史 参考文献目録	H 10	A 7-5	◎
43	日本文学評論史に関する著書論文 (目録)	H 10	A 7-6	○
44	賢瑜と古事記	H 11	A 7-7	◎
45	(日本文学研究史) 目次	H 11	A 7-8	○
46	国学の意義 (序説)	H 11	A 7-9	◎
47	国文学 11 中世学問の特質	H 11	A 7-10	◎
48	契沖の文献学的方法	H 11	A 7-11	
49	国学の諸傾向	H 11	A 7-12	◎
50	契沖伝	H 12・K 26	A 8-1	◎
51	契沖伝 あとがき	H 12	A 8-2	◎
52	雑記帳 12 一契沖伝を書いた心持一	H 12	A 8-3	○
53	ウェレイ氏と語る	H 13	A 8-4	◎
54	国文学徒の思い出 (プロット)	H 13	A 8-5	○
55	久松潜一著作目録	H 13	A 8-6	○

	原稿タイトル	請求記号	原稿収納記号	合致
56	(国文学徒の思ひ出) あとがき	H 1 3	A 8-7	◎
57	契沖の生涯と万葉代匠記	H 1 4	A 8-8	○
58	万葉代匠記の性格と位置	H 2 0	A 9-1	○
59	契沖の註釈の範囲と方法	H 2 2	A 9-2	◎
60	契沖の註釈の範囲と方法	H 2 2	A 9-3	○
61	自撰漫吟集	H 2 6	A 9-4	○
62	漫吟集類題	H 2 6	A 9-5	○
63	新編契沖遺文目次	H 2 9	A 9-6	△
64	書簡の調査原稿	H 2 9	A 9-7	○
65	契沖書簡の写	H 2 9	A 9-8	△
66	契沖書簡集補遺八通	H 2 9	A 9-9	△
67	続契沖書簡集 (資料集)	H 2 9	A 9-1 0	○
68	近世和歌史	H 3 2	A 1 0-1	○
69	近世和歌史 (構想メモ)	H 3 2	A 1 0-2	○
70	荷田春満の和歌	H 3 2	A 1 0-3	○
71	近世和歌史	H 3 2	A 1 0-4	◎
72	国文学通論	H 3 4	A 1 0-5	◎
73	万葉集 一物語日本文学一	H 4 3	A 1 1-1	◎
74	万葉集 一物語日本文学一	H 4 3	A 1 1-2	◎
75	神話伝説 説話文学	H 4 4	A 1 1-3	○
76	日本文学史の基礎的問題	H 5 7	A 1 2-1	◎
77	古代文学における美の類型	H 5 7	A 1 2-2	○
78	中世文学における美の類型	H 5 7	A 1 2-3	◎
79	私の履歴書	H 6 4	A 1 2-4	◎
80	(国文学) 序	H 7 0	A 1 2-5	○
81	文学史の方法論 ほか	H 7 0	A 1 2-6	○
82	国文学 (序と目次)	H 7 1	A 1 2-7	○
83	日本文学史概説 (プロット メモ)	H 7 3	A 1 3-1	○
84	日本文学史通説	H 7 3	A 1 3-2	○
85	枕草子と清少納言	H 7 3	A 1 3-3	○
86	歴史物語	H 7 3	A 1 3-4	△
87	日本文学史概説 序	H 7 3	A 1 4-1	○
88	日本文学史概説	H 7 3	A 1 4-2	○
89	近代文学	H 7 3	A 1 4-3	○
90	西行 (仮題)	H 7 7	A 1 4-4	○
91	新古今集の成立と後鳥羽上皇	H 7 7	A 1 4-5	◎
92	(三) 金槐集の考察	H 7 9	A 1 4-6	○
93	竹園抄攷	H 8 7	A 1 4-7	◎
94	近世の文学思潮	H 9 0	A 1 4-8	◎
95	日本文学史 (プロット)	H 9 1	A 1 5-1	△
96	金葉詞花と和歌の革新	H 9 1	A 1 5-2	◎
97	古典精神の窮み一字治十帖より新古今集へ (序説) 一	H 9 1	A 1 5-3	◎
98	家持の和歌と歌風	H 9 3	A 1 5-4	◎
99	萬葉集註釈巻六を読んで	H 9 3	A 1 5-5	○
100	万葉集 考説	H 9 4	A 1 5-6	◎
101	(源氏物語) 凡例と目次	H 1 1 5	A 1 5-7	○
102	国文学概論	H 1 1 9	A 1 5-8	○
103	萬葉研究法	K 4 7	A 1 6-1	◎
104	日本文学史 序説	K 7 6	A 1 6-2	◎
105	日本文学史 序説	K 7 6	A 1 6-3	◎
106	万葉集とその前後 序	K 5 3	A 1 6-4	○
107	万葉集選釈 一誦習考一	K 5 3	A 1 6-5	○
108	万葉集の名義	K 1 2 8	A 1 6-6	◎
109	万葉集の名巻の組織と性質 IV	K 1 2 8	A 1 6-7	◎
110	古事記研究史 序説	K 1 4 5	A 1 6-8	◎
111	文学論史より見た古事記	K 1 4 6	A 1 6-9	○

	原稿タイトル	請求記号	原稿収納記号	合致
112	(国文学史総説 明治時代) 後期 思潮概観		B 1-1	◎
113	国文学史総説 索引原稿		B 1-2	◎
114	近世文学史 ①		B 1-3	○
115	近世文学史 ②		B 1-4	○
116	近代文学 「序」		B 1-5	○
117	契沖の人間と学問 (二百五十年忌によせて)		B 1-6	◎
118	契沖の随筆		B 1-7	◎
119	日本文学評論史 資料目録		B 1-8	
120	秋篠月清集と拾玉集 一良徑と慈鎮一		B 2-1	○
121	富士谷御杖の百人一首 灯の稿本		B 2-2	◎
122	「上代歌謡」木本通序著 「序」		B 2-3	○
123	古代和歌史		B 2-4	◎
124	古代和歌史 一		B 2-5	○
125	和歌史 総論古代篇 古代和歌史 目次と序		B 2-6	○
126	和歌史研究書 略解 二		B 2-7	◎
127	心敬の連歌論について		B 2-8	○
128	公任歌論集		B 2-9	◎
129	序説 日本詩歌の意味と扱う態度		B 3-1	◎
130	日本詩歌の短形式と長形式		B 3-2	◎
131	日本詩歌の作家と歴史的風土的背景 ①		B 3-3	○
132	皇室と日本詩歌		B 3-4	○
133	日本詩歌の作家と歴史的風土的背景 ②		B 3-5	○
134	日本詩歌の表現		B 3-6	◎
135	日本詩歌の精神		B 3-7	◎
136	古代和歌史		B 4-1	○
137	歌合の和歌		B 4-2	◎
138	正徹と心敬		B 4-3	○
139	万葉集研究史上の一二の問題点 一古典を中心として一		B 4-4	◎
140	契沖の足跡と万葉集		B 4-5	○
141	齊藤彦麿 万葉集抄 卷八		B 4-6	◎
142	近代文学に於ける説話の意義		B 4-7	○
143	世界の偉人 紫式部		B 4-8	○
144	国文学概論 序説 国文学の意義と範囲 第一章 国文学の方法論	H 1 1 9	C 1-	○
145	国文学概論 二 (構想メモを含む)		C 1-	
146	国文学の方法論		C 1-	
147	日本文学に於ける神、人、自然		C 1-	
148	古典と現代 メモ		C 1-	
149	古典と現代 一不易と流行を中心として一		C 1-	
150	日本文学の表現 一日本文学の表現の類型一		C 1-	
151	文献学		C 1-	
152	国文学に関する二三の問題 一プロットおよび本文一		C 1-	
153	国文学の課題について		C 1-	
154	日本文学研究の方法について (附 下書き的な原稿も)	H 1	C 1-	◎
155	文学の形成と作家論 文学の内容と精神 文学史の方法論(別稿「文学史の方法論」とは異なる)		C 1-	
156	日本文学史の時代区分に就いて		C 2- -①	
157	日本文学の学(プロット) 文芸学と文芸史学 文芸学の課題一形象・形成・精神		C 2- -①	
158	国史と国文学史		C 2- -①	
159	日本文学史 目次		C 2- -①	
160	日本文学史論 序説 作家研究と表現論		C 2- -①	
161	日本文学史 概観		C 2- -①	
162	日本文学史 中古以降		C 2- -①	
163	日本文学史 中世、近世		C 2- -①	
164	国文学史通記 (構想メモ)		C 2- -①	
165	文学史の動向		C 2- -①	
166	英雄神話の発展		C 2- -①	
167	古代日記文学の研究		C 2- -①	
168	日記文学 (中古、中世)		C 2- -①	
169	擬古物語、歴史物語、説話物語 その他 中世の自照文学(日記、随筆、評論)		C 2- -①	

	原稿タイトル	請求記号	原稿収納記号	合致
170	紫式部日記に就いて		C 2- -①	
171	和泉式部日記に就いて		C 2- -①	
172	中世文学の特質 宗教的傾向と伝統的傾向		C 2- -①	
173	今昔物語の信仰説話と庶民説話		C 2- -①	
174	伊勢物語と堤中納言物語		C 2- -①	
175	曾我物語に就いて		C 2- -①	
176	「伝記物語」(義経記、曾我物語)		C 2- -①	
177	国文学の領域と基礎的研究		C 2- -①	
178	明治文学史 第一期の文学 明治初期の和歌 明治初期の俳句		C 2- -②	
179	文学史の区分と明治文学の概観		C 2- -②	
180	明治文学史 (第一章後半～第二章前半部分と思われる)		C 2- -②	
181	明治文学史 第二 (第二章浪漫主義前期の文学の後半部分と思われる)		C 2- -②	
182	明治文学史 第二 第三章 浪漫主義後期の文学		C 2- -②	
183	明治文学史 第三 続き		C 2- -②	
184	紅葉と古典からの影響		C 2- -②	
185	幸田露伴		C 2- -②	
186	明治文学序説 (自然主義の作家)		C 2- -②	
187	大正時代の文学		C 2- -②	
188	文学史における和歌[1]		C 2- -②	
189	文学史における和歌[2]		C 2- -②	
190	鶴見大学図書館蔵写本類に関する久松先生の調査メモ		C 2- -②	
191	文学史の問題メモ		C 2- -②	
192	日本文学史 序		C 2- -②	
193	日本学問の伝統と古典		C 3-	
194	古事記研究史 (メモ)		C 3-	
195	古事記研究史 (研究史のメモ)		C 3-	
196	国学に関する編纂計画 (プロット)		C 3-	
197	国学史と国文学		C 3-	
198	源氏物語大成 序文		C 3-	
199	契沖の隨筆		C 3-	
200	契沖の書簡について		C 3-	
201	(契沖全集全十六巻) 監修者のことば (パンフレット)		C 3-	
202	国語国文学会編 [論文集]の序文		C 3-	
203	日本文学評論史の研究 (プロット)		C 4-	
204	古代に於ける文学評論の発生と完成 (資料メモ)		C 4-	
205	小説批評史 序説 小説批評史の意義とその扱い方		C 4-	
206	契沖伝 (参考文献メモ)		C 4-	
207	加茂眞淵の万葉考要項		C 4-	
208	加茂眞淵著 「歌意」と「文意」		C 4-	
209	眞淵と景樹		C 4-	
210	荷田春満の古典研究		C 4-	
211	正徹歌論攷		C 4-	
212	小西甚一著 文鏡秘府論考について		C 4-	
213	近世文学評論 (プロット及び準備メモ)		C 4-	
214	禅竹の能楽論		C 4-	
215	近代前期の文学評論 (プロットと準備メモ)		C 4-	
216	近代の文学評論 (講義メモ)		C 4-	
217	日本文学評論選 (メモ)		C 4-	
218	和歌史雑考 (プロット) 和歌史叢攷 (目次)		C 5- ①	
219	和歌史 序説 和歌史の意味とその区分		C 5- ①	
220	和歌史叢考 目次		C 5- ①	
221	古代和歌史 二 万葉集に現れた文学意識		C 5- ①	
222	古代和歌史 三 展開時代の和歌		C 5- ①	
223	農耕狩猟生活と日本詩歌		C 5- ①	
224	穂積皇子、但馬皇女の歌一首について		C 5- ①	
225	万葉歌人の名に就いて 二人の人麿と五人の蟲麿		C 5- ①	
226	古今集の解釈		C 5- ①	
227	古今集序の一節 古今集所収の業平の歌		C 5- ①	
228	万葉 古今集の本文、注釈書等の目録 (メモ)		C 5- ①	

	原稿タイトル	請求記号	原稿収納記号	合致
229	日本詩歌と季節感		C 5- ①	
230	詩歌と四季または季節感について		C 5- ①	
231	「古今 新古今集 緒言」		C 5- ①	
232	新古今集と玉葉集一		C 5- ①	
233	新古今集の秀歌を選ぶについて		C 5- ①	
234	(古典文学大系の) 新古今集編者の一人として		C 5- ①	
235	和歌史における三人 人麻呂、定家、良寛		C 5- ①	
236	赤染集 巻末の歌の詞書と歌		C 5- ①	
237	栄花物語の和歌の諸問題		C 5- ①	
238	後鳥羽院伏見院の御文学 宗良親王と耕雲 (歌論について)		C 5- ①	
239	さまざまな美について (構想メモと断片的記述)		C 5- ①	
240	六義と六体 (詩と和歌の)		C 5- ①	
241	歌論と歌風		C 5- ①	
242	毎月抄 (定家) 一解釈と批評一		C 5- ②	
243	百人一首に就いて 一研究のためのメモ集一		C 5- ②	
244	中世和歌史 一和歌史研究書略解一		C 5- ②	
245	中世和歌史 序説 および新古今集の歌人		C 5- ②	
246	頓阿と二條家の歌論		C 5- ②	
247	兼好、頓阿の歌論と耕雲口伝		C 5- ②	
248	異本山家集 (附 西行論)		C 5- ②	
249	千載集と西行		C 5- ②	
250	短歌概説		C 5- ②	
251	歌論、俳論選 (メモ)		C 5- ②	
252	伝授論の変遷と文学に取扱はれたる伝授		C 5- ②	
253	梵灯庵、高山宗砌 心敬 正徹		C 5- ②	
254	良寛論		C 5- ②	
255	曙覧、言道、良寛の歌について (メモ)		C 5- ②	
256	曙覧と幸文		C 5- ②	
257	近世前期の和歌と俳諧		C 5- ②	
258	近世和歌史 一近世末より近代へ一		C 5- ②	
259	「あはれ」		C 5- ②	
260	幽玄と「さび」との関係		C 5- ②	
261	俳諧の風姿と風情 一有心連歌について一 (仮題)		C 5- ②	
262	有心連歌		C 5- ②	
263	歌合の方人と歌人		C 5- ②	
264	有名歌人の代表作 (メモ)		C 5- ②	
265	歌合 備考 (下調べメモ)		C 5- ②	
266	歌論に於ける写生		C 5- ②	
267	隆達小歌集の伝本 (浅野健二氏著作の序文)		C 5- ②	
268	江戸時代後期の和歌 俳句 (仮題)		C 5- ②	
269	皇室と日本詩歌		C 5- ②	
270	秋成の歌 (秋成の歌と良寛)		C 5- ②	
271	池袋清風と大西祝の歌論 (印刷物切取、赤黒で書き込みあり)		C 5- ②	
272	名歌の解説、語釈、通釈、鑑賞		C 5- ②	
273	海外に於ける短歌研究		C 5- ②	
274	「天御主神」		C 6- ①	
275	日本紀私記 (メモ)		C 6- ①	
276	古典の意義 (「記紀」一放送原稿一)		C 6- ①	
277	古事記の生成		C 6- ①	
278	古事記の歴史伝承		C 6- ①	
279	古事記研究史に於ける賢瑜と宣長		C 6- ①	
280	北畠親房と古事記		C 6- ①	
281	賢瑜の古事記書写		C 6- ①	
282	古事記 (写本関係メモ)		C 6- ①	
283	無窮会藏風土記関係書目		C 6- ①	
284	風土記の説話と地方生活 (付 万葉集の文学精神)		C 6- ①	
285	大和時代文学概観		C 6- ①	
286	文学の発生と神話 (付 上代の都 一メモ一)		C 6- ①	
287	神功皇后の新羅鎮撫について (仮題)		C 6- ①	
288	大和文学と日本精神 (メモ) (付 日本風土の特質メモ 日本精神の特質メモ)		C 6- ①	



	原稿タイトル	請求記号	原稿収納記号	合致
289	古典の精神要項 (目次)		C 6- ①	
290	古典と日本精神 (付 万葉関係メモ)		C 6- ①	
291	古事記・風土記関係原稿 (古事記の考察、風土記の考察)		C 6- ①	
292	古典の成立と律令の制定		C 6- ①	
293	古代文学に現れた伊勢大和 (研究のためのメモ集)		C 6- ①	
294	古代説話文学 (プロット)		C 6- ①	
295	古代詩歌に於ける神の概念		C 6- ①	
296	万葉集の文化 (レジュメ)		C 6- ②	
297	万葉集に就いて (研究メモ)		C 6- ②	
298	万葉集と叙景詩 (メモ)		C 6- ②	
299	万葉集の枕詞		C 6- ②	
300	「柿本人麿の歌」について (メモ集)		C 6- ②	
301	万葉集の古今相聞往来について (未完稿)		C 6- ②	
302	万葉集の研究の動向と文学地理学 (研究メモ)		C 6- ②	
303	万葉集 巻五と山上憶良		C 6- ②	◎
304	万葉 巻五と山上憶良 (講演メモ)		C 6- ②	
305	憶良の帰化人説にちなみ		C 6- ②	
306	眞淵の万葉研究と詠作との関係		C 6- ②	
307	「万葉集訓点の史的研究」		C 6- ②	
308	万葉集 巻十三 講読 (講義用メモ)		C 6- ②	
309	万葉集 解 256番～455番		C 6- ②	
310	「万葉集の忠君愛国のうた」 (仮題)		C 6- ②	
311	万葉集の二三問題要旨 (印刷物抜取)		C 6- ②	
312	万葉集の総合研究 「歌格・修辞・文法」 (印刷物抜取)		C 6- ②	
313	上代古典研究の伝統 (印刷物抜取)		C 6- ②	
314	第一章 上世文学		C 6- ②	
315	和歌史 (上代文学前期、後期) (印刷物抜取)		C 6- ②	
316	万葉集考説 (封筒表書きによる)		C 6- ②	
317	日本文学の思潮 序説		C 7-	
318	国文学と国民性 (プロット)		C 7-	
319	序説 国文学と道德との関係		C 7-	
320	仏教文学とは何か		C 7-	
321	万葉集に現れた日本精神		C 7-	
322	万葉集に於ける民間信仰		C 7-	
323	古代文学に現れた日本精神		C 7-	
324	源氏物語と美と人間性		C 7-	
325	源氏物語に見える日本的なもの		C 7-	
326	儒学について (仮題) 一勸善懲惡にからめて一		C 7-	
327	中世における美の類型 (仮題)		C 7-	
328	日本美の系譜と幽玄・さび		C 7-	
329	序説 日本的自覚と風土・歴史		C 7-	
330	日本文学に於ける情と理 [付 我が風土・国民性と文学 (講演メモ)]		C 7-	
331	日本の学問の特質と国文学		C 7-	
332	古典学者の美意識 一契沖・眞淵・宣長を中心に一 (後半はメモ的に)		C 7-	
333	近世文学の思潮 (プロット)		C 7-	
334	女性作家と日本詩歌		C 7-	
335	日本文学と世界文学 一古事記とホーマーの詩篇一		C 7-	
336	歴史・風土・文学 (構想メモ)		C 7-	
337	新春爐辺隨想		C 8-	
338	新春の御進講当日について (仮題)		C 8-	
339	契沖の梅の花 一新春隨筆 (短歌新聞) 一 (印刷物断片)		C 8-	
340	国語国文学 (付「稽古照今」)		C 8-	
341	文化建設		C 8-	
342	文学としての謠曲 (印刷物抜取)		C 8-	
343	「臣民の道」に就いて		C 8-	
344	中世に於ける皇室の御文字 (プロットと下書きの一部)		C 8-	
345	国体の本義 (未完)		C 8-	
346	国文学一般 (年次報告書)		C 8-	
347	堤中納言物語「はいずみ」の現代語訳		C 8-	

	原稿タイトル	請求記号	原稿収納記号	合致
348	昭和三十四年国文学界展望		C 8-	
349	「妻の死をいたむ歌」 (仮題—未完)		C 8-	
350	高知行		C 8-	
351	外国文学と国文学		C 8-	
352	事典の草稿 丈草他 4 3 名の俳人の紹介 (各 1 ~ 4 枚)		C 9-	
353	国語教材の研究		C 1 1-	
354	中等国文 (教科書編纂のための構想メモ)		C 1 1-	
355	小学国語読本 卷三に就いて (新編纂の教科書の特色について述べたもの)		C 1 1-	
356	教科書目次 (1 ~ 5 巻分)		C 1 1-	
357	教科書資料 (古泉千樫の歌 7 首)		C 1 1-	
358	昭和 9 年頃発行の国文教科書二種の概要比較表		C 1 1-	
359	国語読本 卷一 目次 (含 改正中学校令施行規則ニ依ル国語読本及ビ漢字読本検定標準)		C 1 1-	
360	かな遣い問題解決の方向について		C 1 1-	
361	国語の問題点について (振がな、漢字節減、かな遣い、標準語)		C 1 1-	
362	国語審議会の運営 その他について		C 1 1-	
363	紀貫之 和泉式部 (事典等の原稿)		C 1 2-	
364	懐風藻について		C 1 2-	
365	契沖 (事典の原稿)		C 1 2-	
366	詠歌大概 (取材メモ)		C 1 2-	
367	平家物語 近松門左衛門 (事典等の原稿)		C 1 2-	
368	飯野哲二「芭蕉事典」 (序文)		C 1 2-	
369	世阿弥 (事典等の原稿)		C 1 2-	
370	芳賀矢一		C 1 2-	
371	現代文学論大系について		C 1 2-	
372	世界百科事典より (桜の種類のメモ)		C 1 3-	
373	図書館雑感		C 1 3-	
374	京阪に於ける古書		C 1 3-	
375	古典 (事典等の原稿)		C 1 3-	
376	信仰と生活		C 1 3-	
377	自著を書き出したメモ		C 1 3-	
378	慶応大学院 林鐘会名簿 (付 林鐘会案内ハガキ一枚)		C 1 3-	
379	東大国文学科の歴史 (東大史誌の原稿)		C 1 3-	